自分でつかむ自分の未来「はびろ学習会」

米原市	活動名 ：「はびろ学習会」	柏原中学校	学校運営協議会 ： ■有　□ 無

主な活動場所:柏原中学校図書室　　開始年度:令和4年度
年間開催日数:10 日　　地域学校協働活動推進員等数:3人(兼務3人)
平均参加人数:20 人　　学習支援員等 平均人数:2人
・学習形態　　:■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他(　　)
・教室のもち方　:■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他(　　)
・学習支援員等の属性:□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO 等関係者 □その他

■ 活動の概要と目的

テスト前および長期休業中に自宅での学習に取り組むことが難しい生徒への学習支援とする。学習習慣の定着と自学自習ができる力を付けるきっかけとする。

■「つながるよさ」を生み出した活動や学習支援内容

支援者が巡回し、必要に応じて声かけや助言を行うことで、生徒一人ひとりの理解度や学習状況に応じた支援を行った。

学年や学級を超えて同じ目的で集う場となり、生徒同士が互いの学習姿勢から刺激を受けるなど、前向きな学習の雰囲気が生まれた。

支援者と生徒との関わりを通して、学習面に限らず、学校生活全般について相談できる関係づくりにもつながった。



【 はびろ学習会 】

■ 事業の成果と今後の展望

昨年度より開催日を増やした。また、テスト前には想定以上の参加があった。

参加した生徒は全員、黙々と取り組み、自ら学習に向かう姿勢を養うことができた。さらに、全開催日に参加する生徒もおり、自学自習の習慣を身につけるきっかけとなった。

支援者の確保が依然として課題である。今後は学校運営協議会委員とも連携しながら、適切な支援者を探していきたい。また、部活動との調整や実施時刻の設定にも課題がある。学習習慣の定着を目的とするため、テスト前や長期休業日に限定せず、定期的に実施できる体制について検討していきたい。

報告書記入者(　校長　)

学力補充教室　「いつやるの？今でしょ！教室」

米原市	活動名 ： いつ今教室	大東中学校	学校運営協議会 ： ■有　□ 無

主な活動場所:会議室、武術室、図書室　　開始年度:平成 25 年度
年間開催日数:10 日　　地域学校協働活動推進員数:0人(兼務0人)
平均参加人数:15 人　　学習支援員等 平均人数:　3人
・学習形態　　:■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他(　　)
・教室のもち方　:■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他(　　)
・学習支援員等の属性:□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的

概要 定期テスト前や長期休業中、また3年生の入試対策として、学力補充やテスト対策を実施する。

目的 ・基礎学力の定着
・自宅で学習に取り組むことが難しい生徒への支援
・希望進路の実現に向けた個々の弱点補強や支援

■「つながるよさ」を生み出した活動や学習支援内容

元教員や大学生から教えてもらうことや、教室を離れた場所や仲間と学習に取り組む環境が新鮮であった。



【 いつ今教室 】

■ 事業の成果と今後の展望

特に自分で学習を進めることが難しい生徒にとっては、教えてもらいながら、テスト勉強に取り組むことができるため、毎回、主体的に参加している。

学習支援員の確保が課題となっている。また、日程調整に時間がかかるため、担当教員の負担軽減をいかに図っていくか、検討していく必要がある。

報告書記入者(　教頭　)

３年生対象小論文・作文対策講座・長期休業中での全校学習会

米原市	活動名 ： 夏季休業中の全校学習会	伊吹山中学校	学校運営協議会 ： ■有 □ 無

主な活動場所:ランチルーム　開始年度:令和元年度
年間開催日数:7日(長期休業中)　地域学校協働活動推進員数:1人
平均参加人数:20 人　学習支援員等 平均人数: 2人
・学習形態　:■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他(　　)
・教室のもち方　:□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他(　　)
・学習支援員等の属性:□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的

生徒一人ひとりが、自分の習熟度や自分の学習ペースに応じて学習を進めることで、基礎的・基本的な知識や技能を習得する。さらに授業で学んだ内容や課題にじっくり取り組み、個別に質問できる場として開催した。



【 冬休み学習会 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動や学習支援内容

複数の学習支援員が生徒の要望に応じて支援できる体制をとることができ、各生徒が自由に質問できる形態をとっている。そのため、回数を重ねることによって、学習支援員と生徒との関係、生徒同士の学年を超えた関係のなかで教えあう姿・学びあう姿が見られた。

■ 事業の成果と今後の展望

生徒のニーズに応じた学習支援員の確保に努め、今後も個別の学習指導・支援ができる体制づくりを進めていく必要がある。

報告書記入者(教頭)

地域の力を活用し、将来に向けて自己肯定感を高める生徒の育成をめざす

米原市	活動名 ： 米原学習教室(MGK)	米原中学校	学校運営協議会 ： ■有 □ 無

主な活動場所: 米原中学校　開始年度:平成 29 年度
年間開催日数:70 日(開催ペース:月平均 5 日)　地域学校協働活動推進員数:4人
平均参加人数:20 人　学習支援員等 平均人数: 1～2人
・学習形態　:■個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他(　　)
・教室のもち方　:■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他(　　)
・学習支援員等の属性:□企業関係者　□行政職員　□元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　■その他

■ 活動の概要と目的

学習面で不安を抱える生徒も多い中、放課後や長期休業中に低学力の生徒を中心に学習支援を行う。

3年生を対象に放課後の時間を活用し、「スーパーMGK」と題して地域で居場所づくりの活動をしている大学生に講師を依頼し、学力補充教室を開催する。3学期は、入試の小論文講座を1月に4回開催する。



【 MGK(夏休み) 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動や学習支援内容

今年度は、夏季休業中に全学年、生徒が課題を持参し、非常勤で勤務している教員と地域ボランティアが個別指導を行った。3年生は4月より入試に向けた学力補充教室を週1～2回開催した。1月には入試の小論文対策として国語科の免許を保持している非常勤で勤務する教員が指導を行った。

全保護者あてに、メール配信にて案内を出した。課題の多い生徒は担任から直接声をかけた。長期休業中は、1・2年にも拡大して質問教室を実施できた。アンケートなどを実施し、内容改善に活用した。

■ 事業の成果と今後の展望

一人では課題に取り組めない生徒も、課題を提出することができた。3年生については、講座を選択することにより、苦手教科の克服につながった。また、入試を意識した学習を2学期から行うことができた。居場所づくりで実績のある年齢が近い大学生に依頼することで、学習面や心理面でも生徒の安心感につなげることができた。また、大学生に様々な活動においてボランティアで参画してもらうことができた。

教員の働き方改革の視点からも本事業は有用であるが、教員 OB 等講師の確保が難しい。大学生が卒業後、継続的な活動になるかは今後の課題である。

報告書記入者（ 教頭 ）

笑顔いっぱい・学びいっぱい活動　～自ら学ぼうとする生徒への学習機会の場の設定～

米原市	活動名 ： 土曜バチスタ	河南中学校　学校運営協議会 ： ■有　□ 無

主な活動場所:　河南中3F 多目的室　　開始年度:平成 29 年度
年間開催日数:15 日(開催ペース:月2日)　　地域学校協働活動推進員数:0人(兼務0人)
平均参加人数:13 人　　学習支援員等 平均人数:　3～4人
・学習形態　　:■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他(　　)
・教室のもち方　:□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他(　　)
・学習支援員等の属性:□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的
主にテスト前の土曜日の午前中(9時 00 分～12 時 00 分)に多目的室で自習をする。わからないところは講師の大学生に質問するなど、学習が苦手な生徒にも参加しやすい学習会である。本年度は講師の人数を増やし 1 回あたり3～4人が支援できるようにした。


【 土曜バチスタの様子 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動や学習支援内容
河南中出身の地元の大学生に教えてもらえるので、地域の先輩・後輩として温かいつながりが構築されている。また、地域コーディネーターのかかわりも検討中であり、生徒と地域の方とのつながりも期待できる。

■ 事業の成果と今後の展望
成果→勉強の苦手な生徒や、家庭学習ができる環境に恵まれない生徒の参加が増え、学習の機会を提供することができている。
課題→土曜開催で担当職員の勤務態様に課題がある。(現在はボランティアである。)
また、講師の報償費にも制限があり、一回あたりの講師数が増やせない。(本年度は、弘済会の教育振興事業の助成に応募して資金を捻出した。)

■ その他
運営を地域コーディネーターに委ねていきたいと考えている。

報告書記入者(　教頭　)

学力補充教室「ＳＧＫ（双葉学習教室)」(３年生対象)

米原市	活動名 ： SGK(双葉学習教室)	双葉中学校　学校運営協議会 ： ■有　□ 無

主な活動場所:メディアスペース、英語少人数教室、理科室等　　開始年度:令和6年度
年間開催日数:50 日(5教科を週1回ずつのペースで実施)　　地域学校協働活動推進員数:0人(兼務0人)
平均参加人数:18 人　　学習支援員等 平均人数:　1人
・学習形態　　:■個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他(　　)
・教室のもち方　:■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他(　　)
・学習支援員等の属性:□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的
概要　3年生の入試対策として、学力補充や入試対策演習を実施
目的　・基礎学力補充および特別対策(長文読解)
・自宅で学習に取り組むことが難しい生徒への支援
・希望進路の実現に向けた個々の弱点補強や支援


【 冬休みに実施した SGK 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動や学習支援内容
地域の教員 OB や本校の非常勤講師に指導を依頼しているため、生徒は気軽に質問することができ、意欲的に学習に取り組めている。
教員養成大学在学中の本校卒業生にも学習支援を依頼しているため、地域の幅広い世代の方々から中学生の学びを支えてもらうことにつながっている。

■ 事業の成果と今後の展望
特に自分で学習を進めることが難しい生徒にとっては、教えてもらいながら基礎学力向上に取り組むことができるため、どの講座も主体的に参加している。今後は、さらに地域の人材を活用した形で本事業を進めていけるとよい。

■ その他
支援員の確保や日程調整に時間がかかることが課題となっており、担当教員の負担軽減について、検討していく必要がある。

報告書記入者(　教頭　)